3. 2016 年度活動概要

1993 年 3 月に東アジア英語教育研究会が発足して、今年で 24 年目を迎える。「継続は力なり」また「継続は真なり」をモットーに、8 月を除いて毎月 1 回の研究会を今年も開催した。今年の研究会の特徴では、1）年間の参加者が 170 名を超えたこと、2）発表者の都合上で 4 月と 11 月の研究会を合併の研究会にしたこと、3）第 169 回研究会は JLTA（日本言語テスト学会）と協賛したこと、4）初めて中学校からの研究発表があったこと等です。

今年も関東・関西及び中国・四国地方からの参加者や研究発表者があった。参加者が 20 名を超した第 166 回の石川慎一郎先生（神戸大）では、「これからのコーパス語彙表の展望」のテーマで他 5 名の大学院生の発表があった。第 170 回の田地野 彰先生（京都大）ではテーマ「これからの英語教育を考える」に 6 名の発表者があり、英文学分野から初めて「「詩とは何か」からはじまる音声指導―英詩研究者からの提言」で桂山康司先生（京都大学）の 50 分の熱気にこもった発表があった。研究会終了後の忘年会兼懇親会にも 30 名を超す参加者があった。第 172 回の吉田喜美子先生（吉野ケ里町立三田川中学校）と合瀬天規先生（鹿島市立西部中学校）のテーマ「「佐賀メソッド」実践報告」の発表に佐賀・福岡県から 7 名の中学校教師が参加され盛り上がった研究会であった。

第 55 回 JACET 国際大会（於：北星学園大学）では、この研究会企画としてシンポジウム「日本と台湾における英語教育改革と大学入試問題」と題し、コーディネター兼パネリストで柏木哲也（北九州市立大）、原 隆幸（鹿児島大）と木下正義（元福岡国際大）がパネリストで発表をした。2017 年 12 月には「研究紀要第 6 号」を刊行予定である。今年 4 月から事務局が原 隆幸先生（鹿児島大）に交代しました。